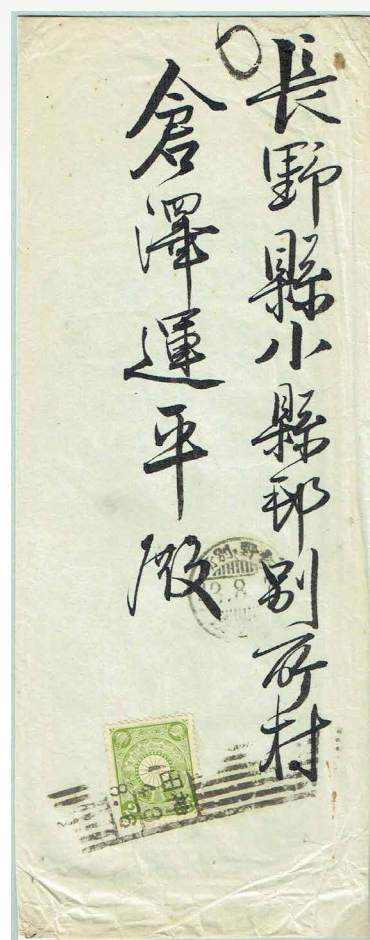


第59回全国切手展 JAPEx2024 誌上予告!

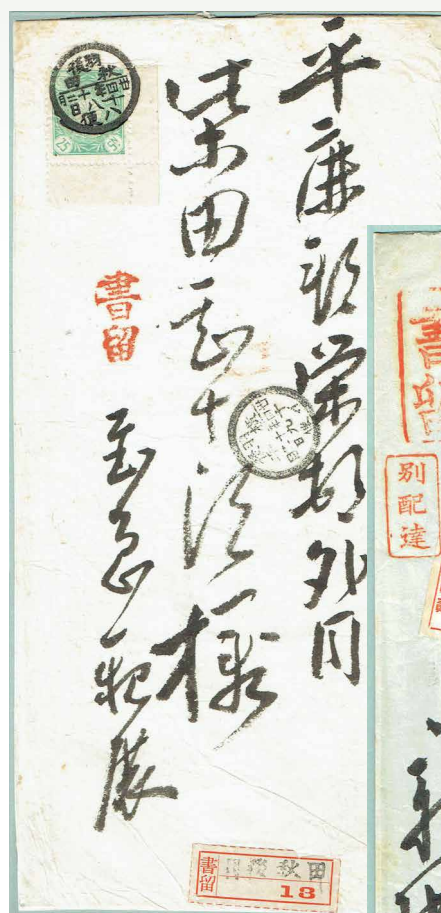
11月1日(金)～3日(日・祝)の3日間、浅草の東京都立産業貿易センター台東館で開催されるJAPEx2024。注目を集める企画出品『菊切手発行125周年』&『2025年日韓国交正常化60周年「韓国切手展」』の見どころを、会場での展示に先駆けて紹介します。(編)

『菊切手発行125周年』



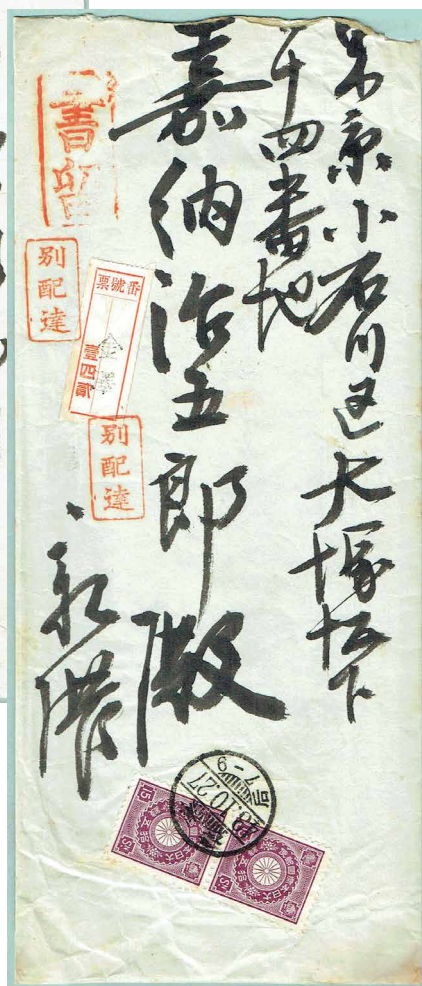
▲菊切手2銭単貼無封書状／神田43.8.6。日本最古となる和文ローラー印が押されたカバー。

▶菊切手15銭2枚貼書留別配達便／金沢43.10.27。受取人は講道館の創始者・嘉納治五郎(1860-1938)で、差出人は富山や石川、静岡、長崎の県知事を歴任した李家隆介(1866-1933)。



▲菊切手25銭単貼書留書状／羽後・秋田34.12.18。第4コーナーの美しい25銭切手が貼付されたカバー。[50%]

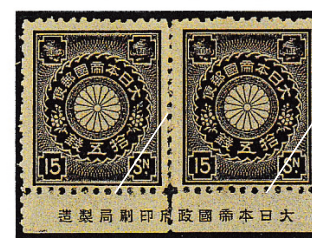
『菊切手の使用例』
(斎 享氏)より



『Japan Chrysanthemum Series1899-1910』(村山廣祐氏)より



P.12L.



Wide Gutter 3.2mm P.12L.



P.13×13 1/2C.

Latest Printing
(brown-purple)

◀菊切手15銭未使用後期印刷の銘版付きペア、櫛型13×13 1/2目打。[90%]

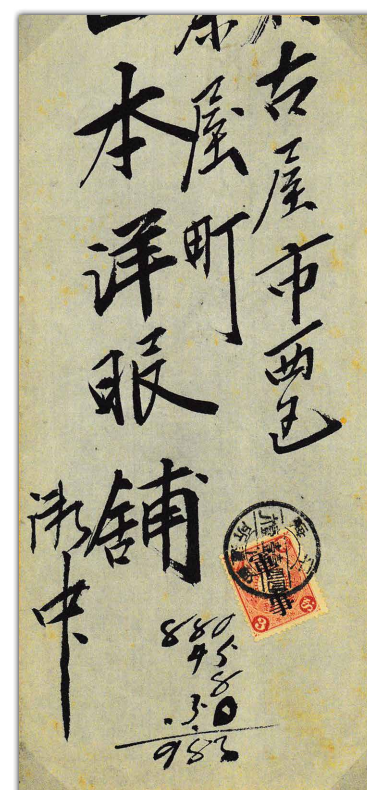
『日本 普通切手1899-1908 菊切手と加刷切手』(古家美和氏)より



▲菊切手の中で最も有名な目打バラエティとなる50銭切手の櫛型12×12 1/2目打。[原寸]

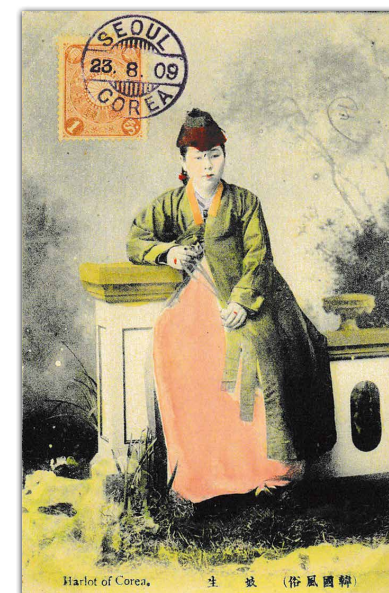


▲菊切手支那加刷の完全な形の切手帳は残されておらず、ペーンのみでも大変稀少。[65%]



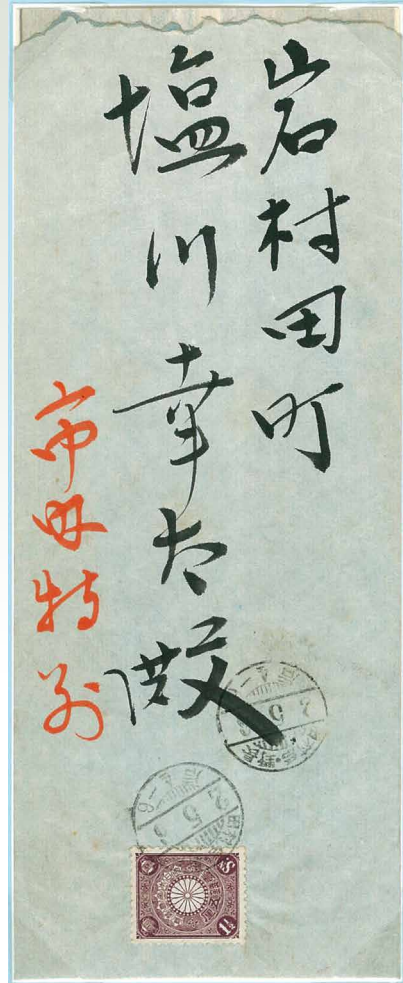
44・11・16。朝鮮・平海郡の憲兵派遣所からの差し出し。[50%]

『菊切手
1899年～1908年』
(藤波誠治氏)より



◀菊切手1銭単貼はがき、朝鮮からイタリア宛／SEOUL 1909.823。はがきは、当時の韓国風俗を描いた絵はがき。

『菊切手発行125周年』



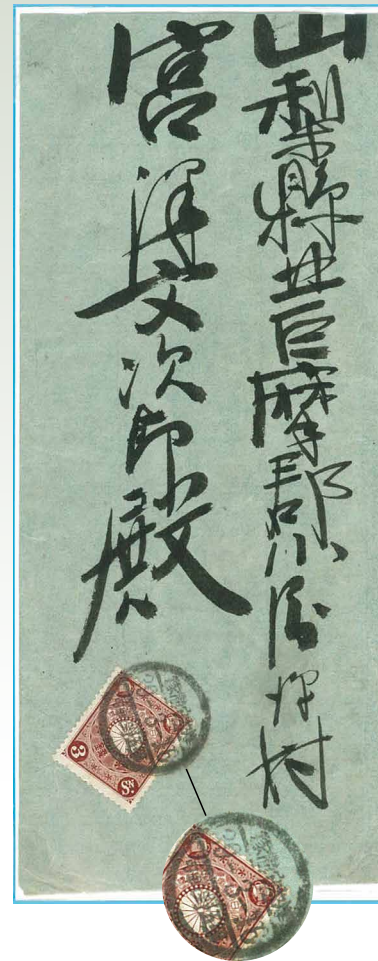
▲菊切手1/2銭紫単貼市内特別郵便／長野・岩村田2・5・6。市内特別郵便はほとんどが料金後納のため、このカバーのように第1種便書状に適正料金の切手を貼付したものはあまり見かけない。[60%]



▲菊切手支那加刷1銭3枚貼書状、中国から播磨宛／清国・汕頭38・2・7。丸一型日付印(下部空欄)を郵便に使用した数少ない使用例。[60%]

『菊切手の消印ー内地編ー』(加藤茂樹氏より)

『菊切手1899-1910』(加藤茂樹氏より)



▲樺太における軍政時代のカバー。菊切手3銭赤茶単貼、山梨宛／樺太守備隊第五野戦局39・3・16。丸一型日付印の上欄部隊名で抹消されたカバーは稀で、貴重な使用例。[60%]



▲菊切手支那加刷1/2銭紫単貼はがき／漢口日本居留地41.6.12。和文の櫛型日付印(C欄局名)を郵便に使用した数少ない例。[60%]

▼無加刷切手の発行年使用となる中国での1899年(明治32)の使用済で、珍重されている。同年10月1日発行の菊切手にもこうした使用は見られる。



(P.12)

TIENTSIN
1899年使用



(P.12)

SHANGHAI
1899年使用



(P.12)

AMOY
1899年使用



▲菊切手朝鮮加刷5銭で、「朝鮮」の加刷文字が右に横ズレしている例。未使用(左)と使用済(右)。

▶菊切手2銭の発行初日の丸一型日付印消し／肥前・佐賀32.1.1。2銭貼第1種便の発行初日カバーと同様、人気がある。[90%]



(P.13×13½)

AWA-MARU
(阿波丸)



(P.12)

AWA-MARU
(阿波丸)



(P.13×13½)

SHINYO-MARU
(春洋丸)



(P.12)

仁川
明治32年使用



(P.12)

仁川
明治32年使用



(P.12)

京城
明治32年使用

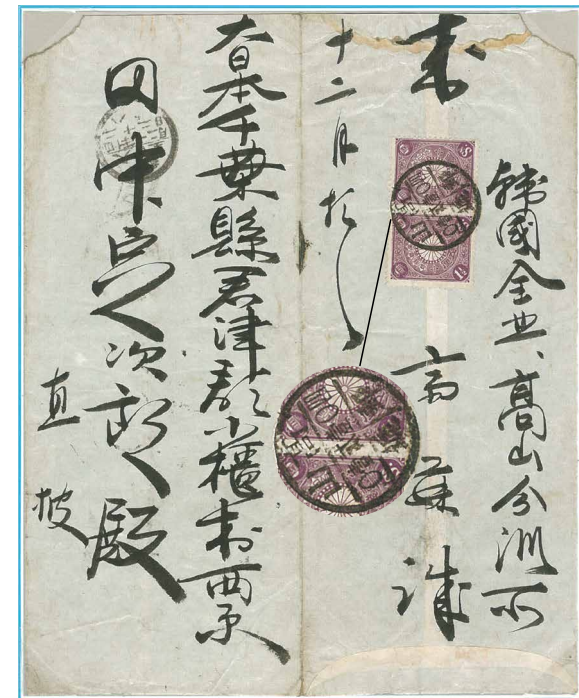


(P.12)

釜山
明治32年使用

▲無加刷切手の発行年使用となる朝鮮での明治32年の使用済で、同年10月1日発行の菊切手7種ではこうした使用は見たことがない。

『菊切手の消印ー外地(朝鮮編ー』(加藤茂樹氏より)



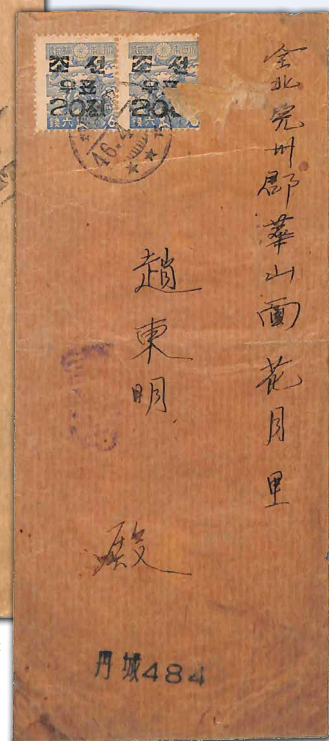
▲菊切手1/2銭紫2枚貼書状／高山40・12・10。臨時郵便所で使用されたカバーで、年月日が漢数字表記の特徴ある消印となっている。[45%]

『2025年日韓国交正常化60周年 「韓国切手展」』

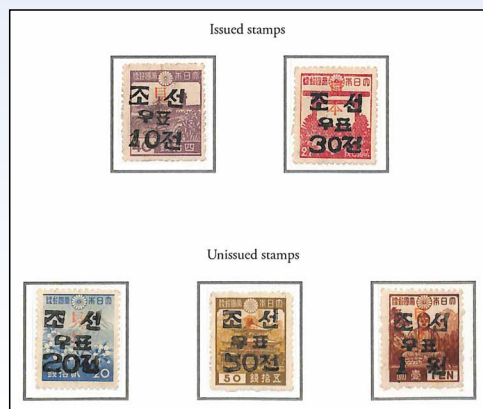


◀昭和切手(第二次5銭2枚)
無加刷の戦後韓国での使用例
／光化門46.2.6。[50%]

▶暫定加刷切手20銭2枚貼書
留便／忠南・丹城46.4.11。
暫定加刷切手20銭の実通使用
例は現存2点のみ。[50%]



『韓国1945-47
(暫定加刷～米国軍政1次普通)』
(木戸裕介氏)より



▲暫定加刷切手の見本加刷。
確認されているのは10例
未満。[50%]

▶暫定加刷切手20銭裏面へ
の加刷エラー。15例のみが
知られている。[50%]



▲第一次普通切手4W、14Wブルーフ。

▶第一次普通切手14W淡青色
銘版付き田型。[65%]

『大韓民国
第一次普通切手』
(木戸裕介氏)より



▲第一次普通切手500W 2枚貼はがき、オースト
リア宛使用例(開城局)。[50%]



◀第二次普通切手 韓国造幣公社版1000W6枚貼訴訟書類便。当シリーズの訴訟
書類使用例は、この一通のみ確認されている。[45%]



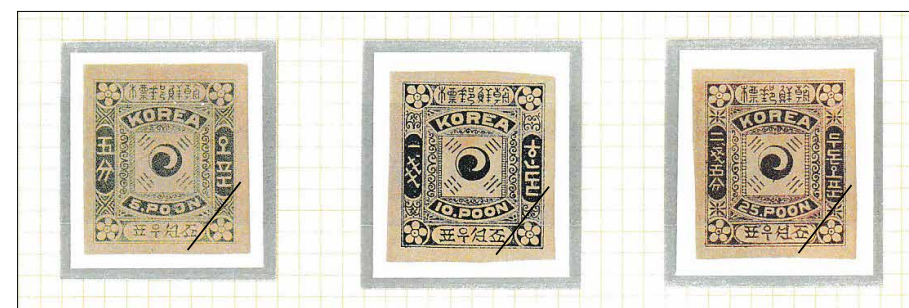
▲第二次普通切手 韓国造幣公社版2000W最大多
数貼(31枚貼付)カバー。[30%]

『大韓民国第二次普通切手』
(木戸裕介氏)より



▲第二次普通切手 東洋製版印刷版1000
Wの黒色ブルーフ(部分)。[60%]

『大韓帝国1884-1905』(岩崎善太氏)より



◀太極切手初版5分、1
銭、2銭5分のブルーフ
は、これ以外には確認さ
れていない。



▲Ⅰ期 外国郵便、UPU未加盟時期(1895～1899)の使用例。こ
の時期は国内郵便しか通用しなかったため、太極切手と小判切手
のコンビネーションは極めて少ない。[50%]



▲Ⅱ期 外国郵便、1900年にUPUに加盟～1905年の日韓併合
までの使用例。李花切手の最高額面となる2圓切手を2枚貼っ
たロシア宛の書留書状。[50%]